

静岡新聞 2024年10月9日付

東京大名誉教授(国際経済学)

伊藤 元重

創造的破壊という言葉は聞いたことがあるだろうか。20世紀の偉大な経済学者であるシモン・ペーターによるもので、資本主義の本質であるイノベーション(技術革新)を表現したものだ。

資本主義の特徴は次々と新しい技術が生み出されて社会を変革し、それが経済発展の原動力となる点にある。イノベーションという新しいことを行うことに注目が集まりがちだが、同時に古いものが次々に壊されていることを忘れてはならない。創造的破壊とは古いものの破壊と新たなものの創出の二面性を持った資本主義経済の特徴である。

現在の世界経済を牽引する米国でも、創造的破壊が非常に顕著だ。GAFAMと呼ばれるグーグル・アップル・フェイスブック・アマゾンなどのIT企業は米国経済の成長の

AIによる創造的破壊

原動力であっただけでなく、旧来の仕組みを破壊してきた。アップルのiPhone(アイフォン)やアマゾンのサービスが、流通業などに及ぼした影響を見るだけでも、その破壊力の大きさが分かる。そして、その破壊があったからこそ、新しいものが生まれてきたのだ。

技術革新の創造的破壊のパワーは、最近になってさらに激しくなっているように見える。AI(人工知能)の動きである。チャットGPTが世に出たからAIは急速な勢いで広がりを見せている。GAFAMをはじめとする他のIT企業も、AIに巨額の投資をしている。AIでの利用拡大が期待されている半導体メーカーのエヌビディアの株価は、米国の株価を牽引している。

AIが創造的破壊のパワーを持つことにはいろいろな側面があるが、特に注目したいのは私たちの働き方である。AIが人間の仕事を代わりにやってくれることで、私たちの仕事が奪われるのだ。すでに、資料のチェックや作成、翻訳などの分野では、多くの企業が活用を始めている。AIがどこまで人間の仕事を代行することができるのかという点についてはいろいろな見方があるだろうが、技術革新の成

果が本格的に出てくるのはこれからだろう。今人間がやっている仕事の半分以上はAIによって置き換わるだろうと予想するレポートもある。

AIが多くの人間の代わりに仕事をしてくれることは、少子高齢化で労働力が減少することを補う効果が期待できる。それでも、AIに置き換わるような仕事をしている人は、職を失うかもしれない。大幅に下がる可能性がある。要するに、AIが引き起こす創造的破壊の厳しい影響を受けなければならない。

AIによる創造的破壊のマイナスの影響を軽減し、プラス面を最大限に享受することを考えなくてはならない。それは、AIによって置き換えられるのではなく、AIを使いこなすことに尽きる。AIが最近になって急速に広がっているのは、それが一般人にも使いやすいような言語モデルになっているからだ。

米国経済は創造的破壊のメカニズムで大きな経済発展を続けていると言った。しかし、その創造的破壊は日本にも広がっている。私たちも、この創造的破壊と共存する術を身につける必要がある。それはAIを利用してみたいということだ。

論壇